平成２８年度石巻地域産業人材育成・定着推進会議（第３回）
参加者発言要旨及び意見交換概要

日 時：平成２９年１月２７日（金）午後１時３０分から
場 所：宮城県石巻合同庁舎 大会議室

１　会議の趣旨（部会座長）

今年度３回目となる当会議は，「石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議」の部会として，石巻地域の学生・生徒の「産業人材としての育成」，「地元企業による雇用」，「就職後の定着」等に向けた具体的な取組を検討する場として開催している。本日は，２月１５日（水）に開催予定の第２回プラットフォーム会議の報告・協議事項について，事前に調整するため開催したもの。

２　出席者

【産業】

石巻商工会議所　地域人づくり支援課長	佐藤　洋一
石巻信用金庫　地方創生支援部長	小幡　一雄

【教育】

石巻専修大学　事務部　主任	猪瀬　寿人
宮城県石巻好文館高等学校　ｼﾁｽﾞﾝｼｯﾌﾟ教育推進ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	西條　高司
宮城県石巻工業高等学校　教　諭	中澤　聖喜
宮城県石巻商業高等学校　教　諭	阿部　朝光
宮城県石巻北高等学校　　教　諭	山本　浩人
宮城県石巻北高等学校飯野川校　教　諭	大橋　孝幸
連携ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	本木　由紀子
宮城県水産高等学校　　教　頭	平居　高志
宮城県石巻西高等学校　　教　諭	吉見　郁哉
宮城県東松島高等学校　　地域産業の担い手育成連携コーディネーター	後藤　　強
石巻市立桜坂高等学校　　教　諭	小　山　　信
宮城県立支援学校女川高等学園　教　諭	鈴木　瑞穂

【行政機関】

石巻公共職業安定所　統括職業指導官	渡辺　正俊
宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班　主任主査	太田　祐一
宮城県東部教育事務所　所　長	熊谷　賢治
【事務局】東部地方振興事務所　地方振興部長	佐藤　健二
地方振興部　次長（総括担当）	薄木　茂樹
商工・振興第一班　次長兼企画員（班長）	元　木　　潔
〃　　【担当】技術主査	菅　原　　伸

【オブザーバー】

沿岸地域就職ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ事業　石巻ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｰｼﾞｬｰ	片山　真平
教育シンポジウム石巻実行委員会　事務局	加納　実久

３　参加者発言要旨

【２報告事項（１）　平成２８年度「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の取組状況について】

（事務局）

平成２８年度「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」取組の活動状況を報告（４つの柱立て）

１　人材育成に関する情報の共有と取組の充実

プラットフォーム会議を７月（第１回），部会（石巻地域産業人材育成・定着推進会議）を６月，９月，１月の３回開催し，各関係機関の取組の情報共有と方向性について協議。部会ではプラットフォーム会議の報告・協議事項の事前調整を実施。

２　地域一体となった職業体験等，産業人材育成の取組の推進

「産業人材育成・定着協働者ガイド」の掲載企業数平成２７年度６９社から，平成２９年１月末現在１０５社に増加。高等学校等の要望を受け，平成２８年度はサービス業，医療福祉，農林水産業分野の掲載を充実させた。推進会議の参加者からの意見をもとに，掲載の方向性を決定。

地元企業と各教育機関のマッチングでは，桜坂高校，石巻北高校，宮城水産高校，石巻商業高校等の取組を例示。

石巻地域版インターンシップに関するガイドラインは，当地域でインターンシップを実施する場合の

目安として作成。特徴として受入側企業による「受入計画」の策定とそれに基づく教育機関の事前指導及び実施後の企業・学校連携の成果報告会実施を提案。
　受入計画策定企業数，平成２９年１月末現在５１社。来年度以降も随時追加予定。受入計画は，育成方針，インターンシップの内容，日程，準備（心構え）等を記載。教育機関の事前指導や学生・生徒の事前学習に活用。今年度は桜坂高校の「さくらプロジェクト」をモデルとして実施。企業・高校合同の成果報告会は有効な取組となった。
３　企業と生徒・学生が接する場の提供等，地元就職の促進
　石巻公共職業安定所と宮城県東部地方振興事務所共催の合同企業説明会。石巻地域産業人材育成プラットフォームの取組と位置づけ，地域全体として新たな提案が出来るものにしていく。
４　就職後の地元定着応援
　就職後の定着促進対策「声出し・話し方」セミナーを開催。石巻北高校飯野川校，桜坂高校を対象に実施。社会人マナーや接遇の前段階として，声を出す，元気を出すところから実施。
　導入した学校では，生徒に良い刺激となった。次年度開催を要望したいとの感想が寄せられた。
　以上を４本柱として，今年度石巻地域産業人材育成プラットフォームの活動を実施。各機関個別の取組も情報収集し，今後さらにより良い取組に繋げていく。

【２報告事項（２）　石巻地域の雇用情勢について】
（石巻公共職業安定所）
　平成 28 年 12 月末現在のハローワーク石巻管内の学校及びハローワークの紹介を希望する求職者数と決定状況。求職者 490 人（前年同期 486 人）就職先決定者数 441 人（内定率 90.0%）平成 3 年以来 20 年ぶりの高い水準。
　企業からの求人は 880 人（前年同期 5.5%増）。統計開始から過去最高の数値。今後更に増加し 900 件を超えると想定。産業別には建設業，医療・福祉分野からの求人が多い。宿泊・飲食サービス業の求人は例年減少傾向にあったが今年度は回復。廃棄物処分・機械メンテナンス等のサービス業は減少したため，サービス業全体は減少。
　職種別は女子生徒を中心に人気の高い事務職が若干増加，同じく販売員は減少。
　平成 29 年度の予定。例年７月開催の合同企業説明会については，石巻会場は会場（石巻市総合体育館）と日程調整中。年度内には情報提供したい。

【２報告事項（３）　各機関における産業人材育成の取組について】
（石巻専修大学）
　１年次から４年次で年間５８回，進路指導に関する行事を実施。３年次が最多で３５回。３月からの就職活動解禁を控えて，大学主催合同企業説明会を開催。３日間（仙台会場２日，石巻会場１日）。１６５社の企業が参加。その他全学年対象の資格取得支援等で学生のスキルアップを支援。
　就職率 79.9％（前年同期 67.4%）で民間企業希望者では 84.2%の内定率。県内平均が 85.0%という報道があった。本学の学生も同等に頑張っている。
　今年度人間学部初の卒業生を輩出。宮城県教職員（小学校），石巻市職員（幼稚園）へ人材を輩出。
　石巻圏域への就職状況は，卒業予定 258 人に対し，就職希望者 214 人のうち 14 人（女子２人）が内定。学生の居住状況は，石巻市内に 600 人（52.2%）が居住し，石巻地域出身者が 162 人（14.8%）。

（部会座長）
　石巻専修大学では，高大間連携等で石巻工業高校，同商業高校，石巻西高校等と連携して様々な取組がある。今後の取組を実施する際に石巻地域産業人材育成プラットフォームの取組も活用を検討願いたい。

（各高等学校から）
①　普通高校１，２
　両校とも進学校。インターンシップ等は未実施。情操教育の一環として，自ら自分の将来を考え，自分で行動して進路を決定するための取組を実施。２年次に職業人講話を実施し，社会人の物事の考え方を学ぶが，企業との接点は希薄。
②　専門高校１
　インターンシップや資格取得指導，技術指導，出前授業等について，課題研究・実習等の時間に平成 29 年度は 30 プログラムを５科でそれぞれ実施予定。インターンシップは，県ガイドブック掲載企業も含めた地元企業の指導を受けている。成果発表も土木科では，実際に指導企業を招いて成果や課題の意見交換を実施。工場見学も各科それぞれ実施。職業人育成を実施。就職状況も好調でほぼ 100%。
　今後とも地元企業の協力を得てインターンシップを実施していきたい。また，全科での実施は出来て

いないが，ガイドブック掲載企業の情報も生徒に紹介して，活用していきたい。
③ 専門高校２
１年次は進路の目的意識を持たせるため，社会人講師を招いての社会人講話，３年生から進路達成活動状況報告を実施。２年次は職業理解の促進を目指して外部講師を招いての講話，課題研究の授業を活用した商品開発，希望者を対象とした企業見学，インターンシップを実施。３年次は長期休暇中に進路希望先の見学，地元企業講師を招いての模擬面接試験を実施。フォローアップ講座として職業人としての意識付けをして社会に送り出している。
④ 専門高校３
総合学科の高校であり，１年次には週２時間，科目「産業社会と人間」で地元企業経営者と同企業従業員からの講話（キャリアアップ講座）を実施。設立当初から石巻地域産業人材育成プラットフォームと連携して様々な取組を実施。１年次，自分自身，社会について知る。２年次以降，系列（専攻）選択。
また，社会での自立を目指した教育を行う趣旨で，社会人講話，先輩（卒業生）講話，２年次はインターンシップ（生徒が希望する地元企業），３年次は外部講師を招いて進路達成に向けた取組を実施。
来年度以降は，本校５系列の専門性と横のつながりを活かした一体感，同系列の先輩と後輩といった縦のつながりを意識した新たな企画を検討中。来年度も石巻地域産業人材育成プラットフォームとの連携に期待。
⑤ 専門高校４
定時制，就労が難しい生徒も在席。体験的な活動を重視して進路行事を実施。２年次，３年次には会社見学，ものづくり企業見学会を開催し，幅広い企業を見学。今年度は管内の味噌製造工場を見学。産業別の学習では，各種専門学校等の協力で各産業の基礎学習後，説明会を開催。インターンシップは，２年次全員が２日間実施。昨年度３終生（通常４年で卒業を１年短縮できる。），２年次に４日間×２回（単位認定）を実施しており，合計３回実施はバランスが悪いとして，今年度からステップアップインターンシップ（石巻 NOTE（NPO 法人）で事前実習等の支援を受ける。）を試行。
⑥ 専門高校５
水産高校。３年間の授業が全て産業人材育成の実施。特別な位置づけは不要。全てが産業人材の育成に直結。水産業は石巻，塩釜，気仙沼と地域的な偏りがあり，水産業に特化して学習を積めば自動的に地元への定着率も上昇。
１年次は４クラス。２年次に５類系に分かれる。１年次に基礎，その後自分の適性，希望を考えながら専門を決定。資料は多数行事を記載。それ以上に生徒は日常的に学外に出て地元企業，外部講師の元で実習。学校として力を入れているのは海洋スペシャリストの育成。水産業，海運業に人材を送り出すのが使命。現状は入学時水産をやりたくて入学する生徒は少ない。自宅から近い，成績等の要因で決定する。それら生徒を３年間でスペシャリストとして育成することに注力。今年は 90 人の就職希望者に対し，30 人が船に乗る職種であり，水産・海運業に進む生徒が６割くらいになる見込み。今後もこの方向性を維持。また，今年は学科改編の完成年で，調理類型から卒業生が出る。魚食文化の継承者育成（調理師免許取得）を目指したが，期待外れ。調理分野に進まない生徒が多い。産業界も船舶調理師養成だと誤解して，要請がくる。類型としての方向性の整理が必要な段階。
⑦ 普通高校３
全体の１割程度（２０人）が公務員，就職希望。人材育成の取組としては，大学の講師を招いたセミナーを企画。今年度は 11 月にオータムセミナーとして実施したものを，来年度は 6 月にサマーセミナー実施する。この時期の変更によって，2 年次，3 年次への進級時の科目選択と将来の職業について考えさせる。さらに，漠然と進学ではなく，理系・文系の正確な情報を与えて考えさせる。また，就職希望者はプラットフォームの取組である合同企業説明会に参加して地元企業の情報を収集した。さらにマナー講座等にも参加している。
⑧ 専門高校６
本校は開校１１年目の３部制。職業観，就業意識を作るところから始めないと難しい生徒が大部分。前年度７２人，今年度５２人が卒業。年度当初は進路指導の教員で会議が続く。今年度は２０人が進学・専門学校，３０人が就職。昼間であれば３年で卒業するが，夜間は４年での卒業となり，生徒も家庭の事情や個人の事情も多く，指導の充実が必要。
⑨ 普通高校４
今年度プラットフォームの取組を３回活用。発声・話し方セミナー，地元女性社会人講話，インターンシップの企業開拓を推進。来年度，開校３年目で純粋な本校生が３学年揃う。３年次の進路指導についても合併前の指導とは違った新たなものを検討中。キャリア教育は週１時間の桜坂タイムで実施。１年次は商店街の大人に接して地元の人を知る（店舗 PR ポスターを作成）取組。２年次は産業を知るためインターンシップを実施。３年次は石巻市に対して高校生の目線で問題提起及び政策提案を行う。地元を知って好きになる女性の育成を目指す。
⑩ 支援学校

この４月に開校。先日来年度の合格発表があり，新たに２６人が入学する。卒業後の雇用形態は障害者雇用であり，通常の高校の進路指導とは違う。本校は職業教育を中心に学習を進めている。今年度保護者へ障害者雇用の現状の理解促進を目的として，啓発セミナーでは，「働き続けることの難しさ」の講演を実施。保護者の理解が進み，緊張感をもって来年度も望めそうだと好評。現場実習は６月と１２月の２回。生徒達も課題を見つけ，解決策を考えたり，進路変更を考えたり良い体験となっている。教職員間の分析では，自分のための実習との感覚が強く，良い評価を得たいため頑張るという意識。職業観が育っていない。最終的な目標をそこに置き，まずは勤労観の醸成を目指すという結論。１１月から新たにボランティア活動を開始。女川町徒歩範囲内の公共施設，企業からボランティア求人をもらい，生徒が応募。障害のある子どもは周囲の人から，ありがとうと言われる経験が少ない。勤労観（奉仕の心）を通とおして自己有用感の育成を目指す。来年度も同じ方針で実施。職場体験は今年度学校周辺だったが，２年次は本人・保護者の希望する職種や場所での実習となり，多くの生徒が地元に帰って３週間実習する。企業の開拓は全県に渡り現在２２社の了解をもらい，あと数社で全員の実習先が決まる。各機関の支援も頂き開拓していく。

（宮城県東部教育事務所）

東部教育事務所の役割は２点。義務教育（小・中学校），社会教育に関する教育支援，地域支援。

今回は青葉中学校区（石巻市西部地区）の小学校（釜小）から高等学校（石巻西，桜坂）までの異校種交流を活用した志教育推進の取り組みを紹介。青葉中学校での進路学習，キャリア教育の抽出，成果の取りまとめ。高校生による小学生への学習支援，小学校行事への中学生の支援（運動会の運営等）で連携。この他石巻工業高校による貞山小への工業技術指導の取組もある。

協働教育の推進。地域で子供達を育てて行こうという取組。地元企業，ＮＰＯ等の皆さんにも教育に参加して頂き，学校と地域が対等の関わり方で子供達を育成。小学校の体験活動，中学校の職場体験等。

パフレットを配布。みやぎ教育応援団。地域と学校との連携を進めるための協力者の一括登録制度。現在二百数十社（石巻地域３０社）の企業，団体が登録している。産業人材育成・定着協働者ガイドと似ている資料になる。教育事務所は義務教育に目が向いてしまうが，この会議は高校の取組や企業の意見も聞けて非常に有意義な会議。県庁の生涯学習課や高校，義務教育が連携して取り組んでいけるものにしたい。

（石巻商工会議所）

地域の総合的経済団体。地元の人材育成，企業の育成，様々な経済に係る課題解決を目指して取り組んでいる。人材育成に関しては，合同企業説明会の支援，就職内定後の入社前新入社員研修を十数年前から毎年開催。記録を見ると 2010 年に新入社員セミナーとして開催し，80 人の地元企業人材を育成。震災の 2011 年は中止。それ以降も 70～80 人が参加している。今年度も３月 30～31 日に開催予定であり，管轄の関係で石巻市内が対象だったものを宮城県東部地方振興事務所と協調して，東松島市，女川町等の商工会エリアの企業・団体等にも参加募集をすることとなった。新入社員研修では，人間形成，コミュニケーション能力向上に多く時間を割いて講師が指導。新人は大化けしないが，受け答え，話し方は見違える印象。若く吸収力がある時期にしっかりした指導を受けることが有効な育成方法。被災地の学生は大変な思いをした。大切に育成して地域を担う人材になってほしい。商工会単独での実施が難しいものを商工会議所と共催，包括的な取組としていく。

（石巻信用金庫）

金融機関として，地域への企業定着，人材の定着には安定した雇用創出が重要。地域の産業育成・振興，新しく創業する方への支援を実施。いしのまきイノベーション起業家塾は今年度で３年目。地域に新たな事業を生み出す人材を育成。平成２９年度も５月から１３回開催。東北大学，石巻専修大学の教授に講師を依頼。信金経営塾，石巻専修大学との連携事業，大学生のインターンシップ,OB・OG の講師派遣等を実施。小学生向けには,金融に対する興味を持ってもらうため,信金マネースクールを実施。中学生，高校生への対象拡大を検討中。

新たな取組として,起業家塾の卒塾生７０人超の交流会を企画する。卒塾生は高い志を持って起業しているので,その後の継続的な操業支援の実施を目指し,交流を通した地域に貢献できる事業の創出を支援したい。

企業が同じ事を繰り返していて存続できる時代ではない。現在操業中の事業についてもグループでのディスカッションを通して,新たな取り組み開始やイノベーションを起こしてほしい。

（宮城県立石巻高等技術専門校）

未来のものづくりを担う高校生を対象に技術指導の機会を設けることを目的に，夏期休暇を利用して，１０人程度を対象に体験学習を実施。

【３協議事項　平成２９年度「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の取組について】
（事務局）
　部会員各位から事前提供のあった資料等を基に来年度の方向性を検討。１～４の柱はこのまま継続。１の情報共有は，来年度もプラットフォーム会議を開催，それを補完部会を３回（６月，９月，１月）開催。２職業体験，取組の促進については，ガイドブック（今日現在１０５社）の更なる充実，企業と学校のマッチングに活用。掲載を増やしてほしい業種等の意見，要望は随時受け付けている。来年度は水産加工品等の製造業や農林水産業の掲載に力を入れ，各教育機関等へ情報提供予定。マッチング支援は義務教育，高等学校，石巻専修大学全ての分野で活用出来る制度へ変革。年度当初に構想段階で一度要相談。来年度新規取組，義務教育向けに教職員１０年研修の地元企業受入を実施。
　インターンシップは，未実施の学校では実施を検討願う。実施している大学，高等学校では，受入計画の活用や成果報告会の実施等，「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」に沿った実施を検討願う。また，石巻地域版インターンシップの実施状況については，当会議の機会を捉えて情報提供願う。３の企業と学生・生徒が接する場の提供については，従来どおり合同企業説明会を実施する。各取組の内容については石巻公共職業安定所と相談しながら改善を図る。
　４定着応援については，「声出し・話し方」セミナーを来年度も２校以上の実施を予定。講師の選定から支援が可能。新入社員研修も石巻商工会議所と内容を検討中。
　柱に基づくスケジュールを選定。取組のスタートが２月としているのは，就職活動が大学生の３月解禁の直前にキックオフするというイメージ。

【意見交換】
（座長）
　マッチング支援の役割は当所としても重要と考えている。これまでも石巻商業，北高，飯野川校，宮城水産，桜坂高と相談しながらマッチングを図っているが，来年度もこの取組を拡大したい。各学校の積み上げてきた取組を壊すものではなく，改善していく一助として検討願う。
　これまで活用した高校にもう少し内情の説明を願う。

（普通高校４）
　２年次のプロジェクトで協力者の地元企業をどのように開拓していくかが課題であったが，ガイドブック掲載企業に声がけをし，快く応じてもらった。しかし，インターンシップへの出勤は生徒の移動手段としているため，徒歩または自転車での移動が困難な地元企業にも声をかけてしまったことが先方にも迷惑となってしまった。移動手段の制約が少ない企業の掲載を要望する。

（専門高校３）
　地元企業経営者とその従業員による講話にマッチング支援を活用。学校が要望する地元企業のイメージで県担当者が選定を支援，調整してくれる。個別の開拓等の対応の必要が無く本当に助かっている。企画の構想段階から東部地方振興事務所に相談すれば様々なアイデアを提供してもらえるので，授業を組み立てる前に是非相談した方が良い。来年度以降もよろしくお願いしたい。

（座長）
　マッチングには，ガイド掲載企業の事情や年度予算等の制約もあるが，今の説明を受けて更に有効な支援に結びつけていきたい。

（東部教育事務所）
　来年度のスケジュールの中で，１２月に小中学校の実施状況の取りまとめと課題整理とあるが，具体的な想定を説明願う。

（事務局）
　毎年度の取組状況を当部会等の場を活用して情報収集するイメージ。どの程度の情報をいつまでにという具体的な方法は現在検討中。

（座長）
　全体のプラットフォームのスケジュールを決めていく段階で，課題抽出，取りまとめを実施していくための時期を明示している。詳細は今後詰めていきたい。
　今年度新規の取組として「声出し・話し方」セミナーを桜坂高校，飯野川校で実施。限られた時間であるが，生徒の変化が見て取れた。今後も継続的に実施していきたいが，実施校から報告願う。

（専門高校４）

本当に良い取組。あまり言って人気が出て競争率を上げたくないほど。面接練習等は毎年早めに開始し，就職対策は重点的に実施しているが，セミナーの効果で面接練習がスムーズに行った。練習後に生徒が率先してセミナーを思い出し練習をしている姿を見る。生徒にも好評であり，教員間でも来年度の継続を望む声が多い。校長からは県予算がなくても学校独自に実施を検討するよう指示がある。ただし，学校予算や保護者からの負担金の徴収は難しく，是非今後とも県による派遣を要望する。現代の特に大人しい生徒には非常に効果的な支援であった。

（石巻商工会議所）
会議の趣旨は理解している。石巻専修大学，各高等学校の現場の先生方の意見等，いい話が聞ける会議であるが，石巻市（行政・教育委員会）が参加していないのは何故か。雇用側としても市内最大の企業は石巻市。職員数 1,200 人超の組織であり,毎年高卒，大卒数十人を雇用。また，産業用地の造成見込み，進出企業や新規雇用が生まれる可能性など情報を最も持っている。提供できるかどうかは別として，市役所（女川町役場も含む。）の各セクションと情報共有できる場としても活用すべき。

（事務局）
雇用主という観点では，来年度からプラットフォーム会議構成員によるインターンシップの受入を新規に開始する予定。まずは宮城県東部地方振興事務所として受入を実施し，随時他の関係団体にも紹介していく。石巻市も当然関係団体であり，協働して人材育成・雇用に取り組んでもらう。
市役所の会議への参画は事務局の調整不足であり，本会議のプラットフォーム会議には斉藤産業部長が出席予定。今後は意見を踏まえて市町担当者の参加も検討する。

（座長）
進出企業の情報の取扱いに関してはデリケートな部分もあって，どこまで共有できるかについては調整が必要。

（高校教育課）
先日，仙台地振でのプラットフォーム会議にも参加した。東部の推進会議は本当に充実している印象。この管内ではキャリア教育で困った時は東部地振に相談すると良いアイデアを出してもらえる。
インターンシップは県内高校の 65.7%が実施。他県では 7 割後半の実施率であり，宮城県は実施率が低位。進学校であっても大学の先の職業観は重要。１日でも学ぶ気持ちがあれば得るものはあるはず。東部地振の取組を活用して実施願う。他地域ではこのような取組がないかという高校からの声がある。当地域はこの取組を更に充実して県内キャリア教育を牽引してほしい。

（座長）
本日の資料，特に資料７の来年度の取組について承認することとし，２月１５日（水）開催の第２回プラットフォーム会議に提案する。

【その他】
（教育シンポジウム in 石巻実行委員会）
一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 の加納です。団体で高校生と街をつなぐ仕事を担当。桜坂高等学校の授業を支援。学校側からの要望，地元企業の想いを聞く場が限られている。皆さん中学，高校生だった時代があり，教育を受ける立場で教育に関わっていたはずであるが，卒業後は遠い場所。どう関わって良いか分からない。また，経営者であれば，新卒生徒を採用してもコミュニケーションを取るのに苦労しているといった課題がある。一方，地元企業・団体または個人を問わず，地域教育として街を挙げて子供達を育成していきたいという声がある。そこで，今回様々な立場の方が一堂に会して，実行委員会を立ち上げ，2 月 11 日(土)を第 1 回目のシンポジウムとして開催することとなった。当地域の取組を知って，皆で考える機会にしたい。石巻専修大学を会場に実施。石巻専修大学人間学部，宮城県東部地方振興事務所，桜坂高等学校からの事例発表もある。学校の先生方，学生・生徒の参加も歓迎。

（座長）
プラットフォーム会議は地域の産学官が連携してという趣旨で実施。今説明があった ISHINOMAKI2.0 等の地域づくり団体は，地域の人材育成に非常に大きな役割を果たしている。今後も様々な形で交流を持っていきたい。
宮城県では内部の士気高揚を目的として，村井知事が１年間の功績を表彰する取組がある。今年度は当地域における産業人材育成・雇用・定着の取組が受賞。通常士気高揚であれば職場毎に割り振って推薦すれば受賞する仕組みが多いが，今年度は全県職員 5,700 人位いる中で，３件のみとなっている。当地域の取組は県内部，村井知事も関心を示し，高く評価している事の照査。本事業への皆様の協力に感謝するとともに，事務局として更なる取組の充実を図っていきたい。

以上